慶應義塾大学出版会
2019年11月新刊のご案内

別刷り注文書

※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

言語学／医学書ご担当者さま

（2019年11月中旬刊行予定）

小児失語症の言語回復
ランドー・クレフナー症候群と自閉症の比較から

星浩司（慶應義塾大学経済学部教授）・宮里恭子（白鴎大学教育学部教授）［著］

A5判上製／200頁　本体予価6,000円　ISBN978-4-7664-2639-7　C3080

☞ココに注目！

- **希少疾患を、言語学から分析。言語獲得のメカニズムを考察する。**
- **小児失語症の治療方法について、言語学的視点から仮説を提唱する。**

小児期に発症するてんかん性失語症、「ランドー・クレフナー症候群（LKS）」。その症状に着目し、LKSとコミュニケーション障害を主訴とする自閉症を比較することで、ヒトの言語獲得のメカニズム解明を試みる。また、子どもの失語症の医学的治療方法について、生物言語学的視点から仮説を提唱する。

対象 生物言語学の研究者、神経学の研究者または神経内科医

☞**詳細目次は裏面に掲載！　ぜひご確認ください！**

ご注文はFAXで！　03－3451－3124

新刊委託	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
			星浩司・宮里恭子 著 小児失語症の言語回復 ーランドー・クレフナー症候群と自閉症の比較から ISBN978-4-7664-2639-7　C3080	6,000円	★

★1つで「500部」を表します

〈詳細目次〉

序論

第 1 章　小児失語症としてのランドー・クレフナー症候群

1. ランドー・クレフナー症候群 (Landau-Kleffner syndrome: LKS) とは
2. 脳損傷を伴う小児失語症との相違点（発症年齢と予後の相関関係）
3. 脳波異常を伴う他の小児脳疾患との比較（LKS と BECTS, CSWS）
4. 自閉症との比較（LKS と AR のリスクマーカー）

第 2 章　人間言語の仕組み ──レネバーグとチョムスキ─の視点から

1. 言語学を理解するためのキーワード
2. 内在化された言語 ──レネバーグの潜在 (的言語) 構造と実現構造／チョムスキーの普遍文法と I 言語
3. レネバーグの母語獲得モデルと臨界期仮説
4. レネバーグの共鳴理論と脳波律動
5. モジュール性

第 3 章　言語理解と発話のメカニズム

1. 言語の理解と発話の脳内メカニズム ──　Hickok & Poeppel (2007) の発話処理モデルから
2. LKS に見られる言語障害の発生メカニズム ──　Hickok & Poeppel (2007) のモデルに基づく提案
3. レネバーグの失語症理論と LKS への応用

第 4 章　LKS からの言語回復と発話促進への治療法

1. tDCS(経頭蓋直流電流刺激) ― LKS への適用の可能性
2. tDCS を用いた言語回復への仮説（8 つの回復パターンに対する部位の特定）
3. レネバーグの脳波律動に関する仮説からの提言

第 5 章　言語進化

1. 言語進化（生物進化 vs. 文化進化）
2. レネバーグの言語の生物学的鋳型（＝「潜在（的言語）構造」）と言語機能
3. 生物進化から文化進化への移行
4. 言語進化から言語障害の医学的治療への貢献の可能性

第 6 章　今後の展望に向けて

1. 自閉症と LKS―誤診防止へのリスクマーカーと早期治療
2. 心の理論と周囲の関わり方
3. LKS 児の言語獲得のための教育的示唆

結論

あとがき

コラム①　ランドー・クレフナー症候群
コラム②　自閉症の発見から現在まで
コラム③　統語論と語彙項目
コラム④　臨界期を証明する事例（ジニー、チェルシー）
コラム⑤　心のモジュール性を証明する事例
（ローラ、ウィリアムズ症候群、特異性言語発達障害、サヴァン症候群）
コラム⑥　ネオ・レネバーグ的生物進化理論
参考文献
索引